

つやまっ子に贈る100冊の本



つやまっ子読書プランキャラクター「ぶっくちゃん」

夢に向かって

バトンをつなぐ

推薦者

清水 公康さん(Ⅲ)

「一瞬の風になれ」(全3巻)
佐藤多佳子著 (講談社)



「先生、面白い本があるで」と、顧問をしている陸上部の生徒が薦めてくれた『一瞬の風になれ』。陸上部のみんながはまって読んだ作品です。

高校陸上短距離を題材に、3年間にわたる2人のスプリンターの成長をつづったこの小説は「走る」感覚をこれほどうまく表現したものに出会ったのは初めてだと思わせるほど、自分の経験と結び付き、実際の場面と重なるものでした。

著者は未経験者でありながら、レース前の緊張や不安、そして恍惚感に至るまで「走る」気持ちをしっかりと書き起こしています。その取材力にはとても感心させられ、一場面、一場面、共感しながら一気に読み進んでしまいました。

陸上競技をしている(していた)人はもちろん、経験のない人にも、ぜひ読んでほしいですね。読み終わったらきっと「走ってみたい」と感じることでしょう。



▲清水さんと津山商業高等学校陸上部の皆さん

美しい衆楽園 環境整備の お仕事に感謝

おたより

衆楽園はいつも気持ちよく整備してありますね。先日、夫と衆楽園を散歩中、池のスイレンの手入れしていた職員の人に楽しいお話を聞かせてもらいました。今から50年くらい前、衆楽園の池にはハスが植えられていたそうです。ハスは開花する時「ボン」と低い音がするらしく、みんなが寝静まった夜中に「ボン、ボン」と無数の音が響き渡るので、とても

問い合わせ先 公園緑地課
☎32・2097



気味悪がられたそうです。そこで、池をさらえる機会にスイレンに植え替えられたらしいのです。その職員は作業の手を休めることなく、スイレンの葉の手入れをするために一人でボートに乗って池に入った時に戻れなくなって困ったことなど、環境整備の大変さをユーモアたっぷりに語ってくれました。本当にご苦労様です。また一段と衆楽園が好きになりました。(二宮・女性)

衆楽園では約千株のスイレンが訪れる人たちの目を楽しませています。毎年5月中旬から咲き始め、8月下旬まで楽しめます。花は午後から閉じるため、鑑賞には午前中がお薦め。清らかに咲き誇るスイレンを見に来てください。

美作高等学校 読書活動優秀実践校 文部科学大臣表彰受賞



美作高等学校の読書活動の特色は「詩集・命のリレー」と平成15年に新設した図書館。「詩集・命のリレー」は詩人・高木いさおさんの3冊の詩集を生徒に読んでもらい、思春期の悩みや葛藤など壁に直面したときの心の支えにしてもらう活動で、感じたことや思いなどをカードに書いて後輩たちへつなげていきます。

図書館は明るく開放的な雰囲気、市内の図書館と相互協力協定を結び、生徒の読書や学習の幅を広げています。生徒と地域の交流の場となるよう一般にも開放していますので、誰でも利用することができます。

問い合わせ先 美作高等学校☎22-2422

きらめく津山人

心に笑顔の花を咲かせたい

ボランティア団体「たんぼの家」代表
日本健康体操指導士



植本 眞弓さん(南方中)

子どもの健全育成や子育て支援、地域住民の健康増進など多彩な活動をし、津山市文化連盟が地域の文化・芸術活動で活躍する個人や団体に贈る「くすのき賞」を受賞した植本さんにお話を伺いました。

「たんぼの家」設立のきっかけは？

久米図書館が新設された時、司書の「子どもたちがすてきな本と出会って心豊かに育ってほしい」という思いに賛同してお手伝いすることになりました。最初は数人で活動していましたが、活動に賛同してくれる人

も増え、今では30人を超えています。会員は子育て中の若いお母さんから、親の介護をしている人までさまざまです。いろいろな特技やスキルをもった人もいますので、今では読み聞かせのほかにも人形劇や人間劇、お話し会、楽器演奏、紙芝居など、久米図書館を拠点に、公民館や小学校、幼稚園、保育所、親子クラブなどで出前上演をしています。健康体操指導士としても活躍していますね。

壮高年齢の人を対象に地域の集会所などで活動しています。年齢層に合わせてリフレッシュ体操やストレッチなどを行っています。参加者の中には80歳の人もいます。

体の健康だけでなく心の健康も大切だと思って指導しています。みんなと一緒に体を動かす楽しさを感じてもらい、心と体が一体化したようになるよう指導しています。



▲いっしょにあそぼ！
0123「てくてく」の様子

導できたかと思っています。さまざまな活動を支えるパイタリティーの源は？

「たんぼの家」では、子どもたちの純真な笑顔や感動に出会えます。社会環境が移り変わる中でも子どもたちの笑顔は昔も今も変わりません。この活動を通じて、わたし自身、元気をもらっています。

子どもたちが健やかに育つことを願って親子のふれ合いの場を提供できたら、幸せです。日々の小さな感動の積み重ねの中でわたしの心に笑顔の花が咲いていく感じです。皆さんの心にも笑顔の花が咲くように、こ

れからも小さな種をまいて心と心がふれあう活動を続けていきたいと思っています。

市の人権擁護委員も務める植本さん。人がふれあい、心動かされることで生まれる「こころのキャッチボール」の輪が広がり、永く活動が続くといえますね。